



支部役員の独り言

副支部長 吉岡 秀卓

シャープ社友会
広島支部会報
ひびき 第20号

発行人 出口 昌孝

1面	春夏秋冬	主要記事
2面	秋の旅行ガイドダンス	
3面	遠隔地会員は今	
4、5面	HOW DO YOU DO	
6面	同好会ルポ	
7面	通信事始物語	最終章
8面	社友短信	

社友会広島支部の役員を務めて五年四ヶ月経過した。そして、今年の役員会で副支部長に推薦され、微力ながら努めさせていただくことにした。

振り返ってみると、私はどんないきさつでこの支部の役員を引受けたのだろうか。

私が定年退職（平成七年十一月）した翌年の支部第三回総会に初めて出席したとき、当時の役員（六名体制）から緊急動議として総務担当役員を一名増員したいとの提案があった。この総会に出席されていた先輩のKさん、Eさんがこれに応えて、私の名前を大きな声で指名され否応なしに役員にさせられたのを思い出す。

当時は、現在のように事前に根回しし本人の内諾をとりつけることもなかったのか、私にとっては「ヤミテン」にあったようなものだった。今にして思えば、この先輩の温情？に感謝してよいのかそうでなかったのか。

これが、それから五年間を担当した総務幹事のスタートであった。さて、総務幹事としての努めは、最初こそその業務量は少なかったが、支部会員の増加ととも

もに業務量もふえ、先輩役員諸氏が蓄積された支部資料（会則・会員名簿・入会者案内など）の整備、新規規定、業務マニュアルの制定、使用様式の設定など、先輩役員の協力を得て、広島支部の事務局業務をそれなりに充実させることができたと思っている。

今回、役員交替に伴い、総務幹事の業務を新役員の西尾さんに引き継いだ。その業務量の多さに自分自身が驚き、初代総務幹事としてすこしやり過ぎたのでは？ 後任役員に迷惑を掛けたのでは？ と危惧している。

一方、副支部長の努めとしては、現在、当支部の役員会で審議中の「役員の職務」によると「副支部長は支部長を補佐し、支部長事故あるとき、また欠けたときは、その職務を代行する」とあり、支部長が元気でおられる限り、私の業務は今までとくらべ極めて少なくなると思われる。ただ、私自身としては、前記の職務以外に「支部長が暴走したときはブレイキの役目を果たす」ことも職務の一つと思っている。

そのほかにやるべきこととして、今年三月に実施した「アンケート調査」で会員の皆様から

準会員制度廃止のお知らせ

広島支部独自の『準会員』制度を、運用面で十月より廃止します。

本年度の、本部会則改定により入会条件の『定年退職』が除外されたため、これまで準会員の方々は、通常会員に切替を行い、以降同じ条件の入会手続きも、同様とします。

なお、支部会則の改定は、次期総会で行います。

提出いただいた、ご意見やご提案の実現化を今年度のテーマとして取り組んでいく。

いすれにせよ、現在の広島支部は、まだまだ整備すべき事項を多くかかえており、更なる充実・成長を図り、会員の期待に応えられる明るく楽しく活動できる会にしたいとかがえて

いる。

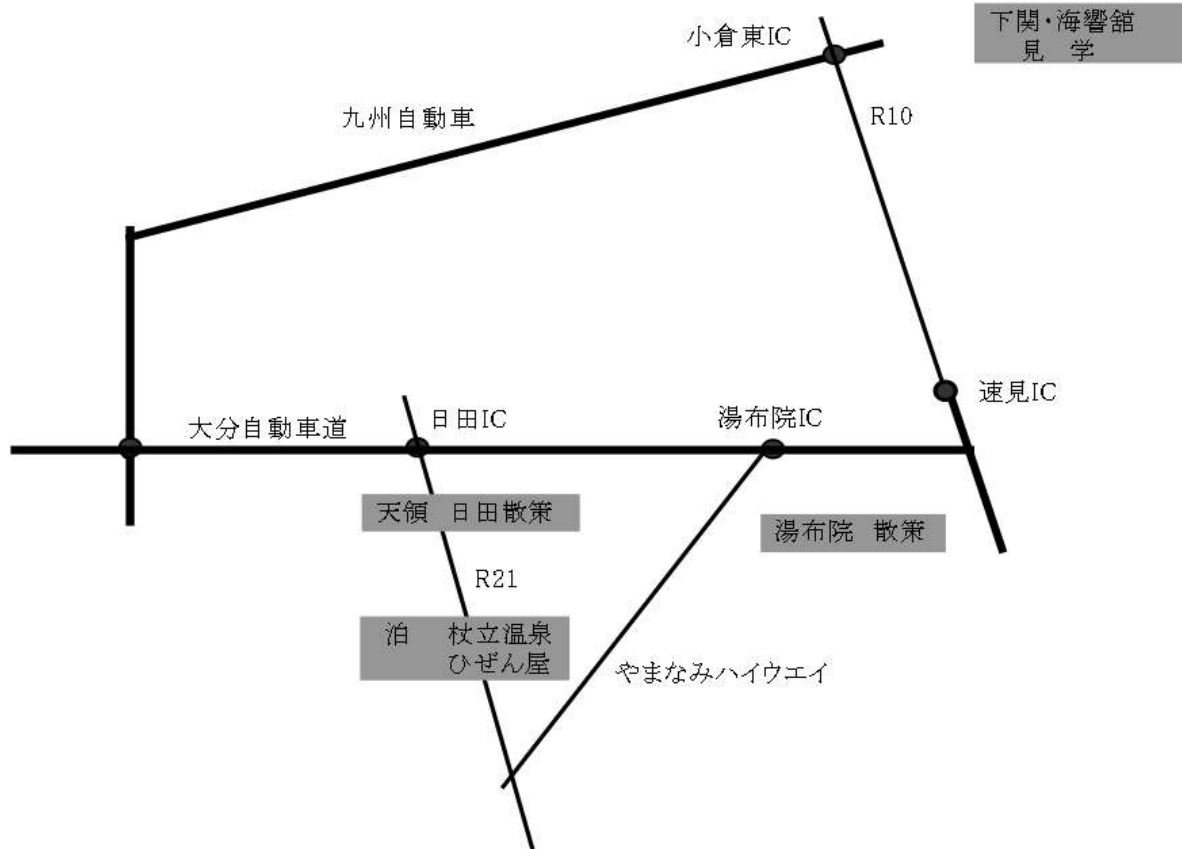
そのためには、次ぎのように会員の協力も必要となる。

- (1) できるだけ多くの人が一度は役員を経験してほしい。
- (2) もっと多くの人々が社友会室に来て会員相互の交流をはかってほしい。
- (3) 支部を充実・発展させるための建設的な意見提案がほしい。
- (4) 新年会・定期総会・親睦旅行などの行事に積極的に参加してほしい。
- (5) 同好会の新設提案や既存同好会へ積極的に参加してほしい。

以上、いろいろとつぶやきましたが、要はこの支部をよりよくするため会員諸兄のご支援を願うものです。

秋の旅行ガイドンス

杖立温泉最大の ひぜん屋 に泊まって
海響館で「海のいのち」に触れ
天領 日田&湯布院を散策する旅



海響館 見学メモ

- 今年4月1日にオープンした。メインテーマは「海のいのち」。どんな海のいきものに逢えるやら。
- 今旅行の最初のビューポイント。しかし、時間の制約でゆっくりできないかも。

ホテルひぜん屋 ひとくちメモ

- ホテルの真ん中に、肥後・熊本と豊後・大分の県境がある。フロント・ロビーは5Fにあって溪流に沿って建物が並ぶ。迷子に注意。
- 元禄1年(BC1688)の創業
- 泉質は弱食塩泉 各種の風呂を楽しんでください。

天領 日田 散策メモ

- 幕府天領日田の面影が強く残る豆田町を散策。豪商が軒を並べ、博多・長崎に劣らぬ繁栄を誇っていた。
- 咸宜園は、明治まで続いた私塾で国内各地から4800人もの学生が集まった、という。
- 日田のお土産
赤司日田羊羹
布善のそば饅頭
日田下駄

旅行期日	11月18日(日) ～19日(月)
参加募集	締切10月15日 定員45名
出発	18日 7:30AM
帰着	19日 7:30PM
場所	第3工場

湯布院 散策メモ

- 狭いようでも、いささか広い。時間を有効に活用したい。
- お土産が目当てなら、心配無し。
- お勧めは、金鱗湖そばの「下ん湯(共同浴場)」の入湯。ただし、外来者へのオープンは12時説がある。

遠隔地会員は今

無農薬 有機栽培の菜園で自給自足

山口県大島郡在住

越智光夫 さん

(No.1621)



作業中の越智さん。本文と関連のある写真を、と注文したらこの写真を送ってくれました。



大島瀬戸に横たわっている1020mの大橋(トラス式)を渡ると人口28千人、みかんと鯛で有名な大島(屋代島)に、私は住んでいます。
定年と同時に、故郷でもなく知人もいない大島に移り住んで、一年半になります。

心地のよい快適なところです。
のんびり生活を楽しもうと考えていたのに、それは反対に毎日が結構忙しい日々を送ることになりました。

周りの人は朝も早く、6時頃には農機具の音がして、目覚ましの役割をしてくれる事もあります。
私も庭に50坪ほどの畑を開墾して野菜を作っています。開墾時、土の中から大小の様々な石が出てきて大変だったり、冬には山へ腐葉土を何回も取に行つて畑に埋め込んで土作りをしました。

今年、菜園の収穫野菜で全て自家製でまかなう事が出来、知人にも配ったくらいです。
野菜は、有機栽培に取り組んでおり玉葱、西瓜、人参、牛蒡、胡瓜、トマト、茄子、玉蜀黍、薩摩芋、里芋、ほうれん草、春菊、ピーマン、白菜、オクラ、豆類を作っています。

また、珍しいものでは近所の人の好意で、みかん畑を借りてみかん栽培に取り組んでいます。今年のみかんは、生り年でたわわになっていますが、無農薬栽培のため外見はよくありませんが糖度ものって美味

しいみかんになりそうです。

海の方は、気が向いたときに釣りに行きますが、家から釣り場まで5分位です。魚により、遠くへ出かけることもあります。

主な魚は、鰻、眼張、タナゴ、カレイ、サヨリ、などで最大釣果はサヨリ100尾、鰻50尾くらいでした。最近の後始末に困らないよう1〜2回味わえる程度にしています。

春は、若布、天草(ところてん)、などの海草取りに行きます。いずれも海の香りと若くて柔らかい、旬の味は格別のものがあります。

自身の老化防止を兼ねて今、四つのクラブに入会していますが、このような場所に参加することで、地域の人々とのふれあいや、意見交換の中で自分に役立っています。クラブの一つ郷土会では、大島町を中心に山口県の歴史等の勉強会を行つて、一泊や日帰りの旅行を行っています。

また、本格的にパソコン学習をしたのを役立てて、大島町の行方IT講習で町民の方々にパソコンを教えることで、自分のボケ防止にも役立てています。

以上が、私のライフスタイルですが体は健康、環境は良好、人間味あふれる恵まれた環境の中でふれあいの場を持ちながら、これからのながらい人生、田舎暮らしを満喫したいと考えています。

あるこう会

9月定例会は大久野島へ
過ちの歴史を探訪

7月定例会Ⅱは、国立広島病院から山陽自動車道を超え、寺家橋を渡り側道を西へ迂回する入院者がよく歩くコースと合わせ約4kmを歩きました。
8月定例会は、外部団体の行事に参加し白鳥山登山と湿原に自生する植物の勉強を兼ねたコースでした。
9月定例会Ⅰは、戦時の地図にはなかった忠海の沖に浮かぶ大久野島を歩き、昭和の過ちの歴史を探訪しました。
大久野島には、昭和四年に旧日本陸軍の毒ガス工場が設置されています。「ドイツ式イペリット、フランス式イペリット、ドイツ式不凍イペリット、などなど」が生産されました。



展示館を見学しましたが、将来に再び過ちを繰り返す事の無いようにと、思いを新たにしました。
9月定例会Ⅱは、三つ城公園からブルーパール・大学通りを往復する6kmのコースを歩きます。

(濱川 記)

ゴルフ

平成13年度第4～6戦

第42回コンペは梅雨も明け、当日は36・9℃という記録的猛暑とも戦うコンペになりました。

社友会としては、新人ながら多年のキャリアを誇る高見氏の初参加もあって戦前の予想は、実力戦が想定されていました。

結果は、スタミナ以外の「実力」で5アンダーをだして優勝になり、反面では16オーバーとの差は、これまでと変わらず、全体のレベルは維持されている(?)状態でした。しかし、一方ではハンディ改定を意図的に狙った(?)と見えるスコアもありました。

第43回コンペは、台風11号は去ったものの雨模様様の天気予報が外れ、残暑の中にも秋風の爽やかさを感じる日和でした。優勝は、12アンダー。全くの驚異。8アンダーで優勝できないとは！と外野からのボヤキもあったほどで、皆さんそれぞれ、それなりの努力の結果が出たプレイでした。

第44回コンペは、昨年四月以来の朝日GCに舞台を移しました。このコースに

は参加者にクラブ会員が多く、彼らのホームコースで一つの狙いがあったか結果も、狙いどおりなら見事というべ

きで、優勝・準優勝とクラブ会員が占めました。ベントのワンダグリーンのコースで前日あたりにサンドグリーン化されていたのには驚きました。(出口 記)



第42回コンペ 優勝 山口さん(中) 2位 山内さん(左) 3位 西尾さん(右)



第44回コンペ 優勝 山内さん(中) 2位 相馬さん(左) 3位 山口さん(右)

第42回コンペ 7/24 賀茂CC			第43回コンペ 8/27 安芸CC			第44回コンペ 9/20 朝日GC		
順位	参加者	Par	順位	参加者	Par	順位	参加者	Par
1	山口剛	-5	1	松本	-12	1	山内	-6
2	山内	-3	2	大和	-6	2	相馬	-1
3	西尾	-3	3	山口剛	-5	3	山口剛	0
4	徳永文	-1	4	山内	-3	4	車角	0
5	鈴木	0	5	小林	-3	5	山口春	+1
6	明石	0	6	相馬	-1	6	高見	+3
7	山本善	0	7	出口	0	7	嵐	+4
8	岩永	+1	8	山口春	0	8	山本博	+4
9	吉久	+1	9	山本博	+1	9	出口	+5
10	嵐	+2	10	山本善	+1	10	吉久	+5
11	小林	+2	11	岩永	+1	11	広瀬	+6
12	高見	+2	12	杉山	+2	12	植木	+8
13	松浦	+4	13	増本	+2	13	山本善	+8
14	山本博	+4	14	小谷	+3	14	徳永文	+9
15	車角	+4	15	吉久	+5	15	松本	+11
16	相馬	+5	16	高見	+6	16	西尾	+12
17	山口春	+6	17	佐々木	+9	17	片桐	+17
18	出口	+7	18	嵐	+10	18	佐々木	+26
19	大和	+7	19	徳永文	+12			
20	片山	+7						
21	佐々木	+7						
22	増本	+9						
23	杉山	+14						
24	徳永幸	+16						
N.P	嵐・小林		N.P	松本・高見		N.P	相馬・山口春	

第45回コンペは 恒例2Rツアー

10月恒例の、2Rツアーは10月30日～31日の2日間で行います。

30日 山口・美和ゴルフクラブ
31日 柳井カントリークラブ

30日の宿泊 大島・ホテル大観荘

グラウンドゴルフ

毎火曜日が練習日

自然のあるがままに

私達グラウンドゴルフ同好会は、先輩同好者の熱い思いと、力強い根回しに支えられて、予定通り七月八日に発足しました。当日は、今後の活動の打ち合わせと、未経験者を対象にした体験プレーを実施しました。事前に注文した用具を業者に持参してもらい早速前述のプレーに活用しました。

プレー中に発生する各種トラブルやルールは、事前の説明では理解しづらいものですが、実際にプレーしながら経験者の説明を受けることで、着実に理解が深められてきております。



第3工場グラウンドでの練習風景。毎週火曜日の午前中に、こんな光景が見られます。

から、気楽に見にきてもらい、そして仲間に入って下さい。
グラウンドの内野部分は、草も無く平坦です。初心者でもおおよそ狙った方向にいきますが、草のある外野部分は方向、距離ともに苦戦の連続です。
それがまた自然のまま、あるがまま、のグラウンドゴルフの魅力なのだと思います。先ほど記述しましたが、多くの方の

ボーリング

第十五回大会 200点アップで

復帰の「車角さん」が優勝

恒例の第十五回ボーリング大会は、十七人(男性陣十名・女性陣七名)の参加者を得て、九月二十三日に賀茂ボールにて開催しました。

今回の注目点は、足の故障も癒えた実力者車角さんと、最近の月例会で高得点をたたき出している細井さんの優勝争いが見られていました。

第一ゲームが始まると、車角さんがいきなり四フレイムから、連続セストライクを連発し二三五点(スクラッチ)の高得点をマークしてダントツ。

これには、細井さんも戦意喪失して一六四点でゲームアップ。

一方、前回優勝の坂本さんは、一八〇点のベストスコアを出すも、マイナスハンディが効いて第六位と及ばず、全員があきらめムード。

第二ゲームでは、上位者が準優勝に標的を変え奮戦。総合結果は、次ぎの通り車角さんが四回目の優勝、吉岡夫人が第一第二ゲームともに、ベストスコアをマークしてハンデキャップを有効に生かし準優勝を獲

入部を期待しております。

お知らせ

練習日 毎週火曜日

練習時間 十時から二時間

入会金 二千元

年会費 二千元

(河上 記)

得しました。



第15回大会に参加のみなさん

優勝 車角 裕規(社友会) 三八六点
準優勝 吉岡 秩代(夫人) 三七九点
第三位 細井 博文(社友会) 三四二点
車角 裕規(男性) 二二五点
吉岡 秩代(女性) 一九一点

HG 賞 吉岡 秩代(女性) 一九一点
(注) 得点はいずれもハンデキャップを含む
(吉岡 記)

パソコン

月例会は情報交換を主体に

パソコン同好会は、月に1回それも2時間以内の会合です。実施できる内容に限度があります。そのため、下記のように会員の共通関心事項をメインテーマで、知識の向上を図り、加えて意見や情報の交換を行っています。

最近では、話題の<ニムダ>や<ブロードバンド>も登場しました。また、マシントラブルの体験や操作ミスを経験も、発生状況やその結果が貴重な情報でもあり、会員相互の資産にもなっています。

広島パソコン同好会会合記録

会合No.	月次	メインテーマ
# 21	H13.04	増設周辺機器の研究
# 22	H13.05	ワードを使いこなす その1
# 23	H13.06	インターフェース USB の研究
# 24	H13.07	ADSL の研究
# 25	H13.08	メールあれこれ
# 26	H13.09	ワードを使いこなす その2

パソコン同好会月例会

基本 例月第3水曜日
10月度は、17日(水)
次月予定日は都度設定
年会費 不要
持参物 筆記用具
購読誌 ノートPC(あれば)
例月専門誌を購入・自由閲覧

同好会ルポ
HOW DO YOU DO 番外編

釣り同好会報告

アジ釣りに興じアジを食す

今回は、盆明けの8月18日(土)の釣行を報告します。一年ぶりの『鰯』でした。毎日うだるような暑さの連続、その日も37℃のカンカン照りでした。

朝の3時に第3工場に集合、今回の参加者は6名です。さすが、朝の3時は早い。皆さん目をこすりながらの出発になりました。

行き先は、いつもの倉橋町の重生です。早朝なので車も少なく、途中で買い物をしました。4時半前には港に着きました。

まだ暗いのに、船はエンジンをかけて私たちを待っていました。

今回のアジ釣りが初めてなのは牛田・篠永・山口(春)・高橋(文)の各氏で、私と車角さんは昨年経験済みです。

港を出てから約30分、東の空が明るくなり始めた頃、アジのポイントに到着です。

アジ釣りの仕掛けは船頭さんが準備してくれました。11本針のサビキ仕掛けで、錘は40号、エサはありません。擬餌針です。

船頭さんの「いいよっ！」の掛け声でいよいよ釣りの開始です。

釣り方は簡単で、ハリスから道糸を4ヒロほど降ろして仕掛けを上下に大きくサビキます。

4回く5回上下していたら、ググウと手応えがありました。アジが釣れたのです。間違いあ



なにやら体操をしているように見えますが、釣り糸を引き上げるところです

りません。

ゆっくりと、道糸をたぐります。アジは、口のまわりが柔らかいので、強く上げるとバレるのです。見えてきました、35〜40センチが2匹

です。車角さんに、網ですくつてもらいました。ヤレヤレ。丁度、時合なんでしょう仕掛けを降ろしたら釣れました。

他の皆さんを見まわすと案の定、私が昨年経験したのと同じことをしています。仕掛けがからんで、それを直すのに必死です。針が11本と多いのでハリスだけでも10mちかくになるため、

魚が釣れると釣り糸の始末次第で、針と糸とが絡んでしまうのです。

それでも、だんだん慣れてきて皆さんそれぞれ、アジの引きを楽しんでいました。

車角さんが、刺身を作りだしました。タタキの用意もしてきた、と言っています。お手並みを拝見です。

7時をすぎると、段々釣れなくなってきました。やはり、早朝5時から6時までがよく釣れました。しかし、退屈しない程度にポツポツ釣れています。9時頃になると船頭さんが、今日はこれまでだろうと、飯にしようかの声で納竿となりました。「飯」は朝めしそれとも昼めし?朝食べていないので、朝飯にしました。

車角さんの作ってくれた刺身をつまみに、ビールを飲みながらの楽しいひとときです。

船頭さんの用意してくれた、炊込み御飯もなかなかの味でした。沢庵とらんきよと番茶とで、最後の仕上げでした。

(川田 記)

『通信事始物語』最終章をお届けします。杉山健さんに始まった、オーディオの世界から、まったく未知の分野での開発。その開発を指揮した、宮田悦太郎さんの苦悩と英断。しかし、物作りの結果は売れてこそ評価に繋がる。戦略のない市場投入は誤算の温床になる。最終章は、ゼロから仕掛け、当社の通信事業を軌道に乗せた通信営業事始物語を、顧問の中川伊志巳さんにお願ひしました。(広報担当 記)

通信事始物語 最終章(その一)

通信営業のスタート

顧問 中川 伊志巳さん



「愛想よう、お客さんを迎えてや」。保安の人達にそう声を掛けて、日曜日の夕方、新任事業部長として、はじめて広島工場の門を潜った。

86年4月、当時の辻専務(現 相談役)から「次は通信事業だ」と励まされて、通信オーディオ事業部長を拝命したものの、この分野では素人。通信に詳しい知人にアドバイスを求めると「通信メーカーはみんなNTTの近くに立地。西であれば、せいぜい横浜まで。広島となるとNTTには相手にされず、部品メーカーも行くのを嫌がるよ」と宣託された。そこで「何としてもお客さまに喜んで来て頂ける事業部にしたい」との思いに駆られての赴任であった。
部屋に入ると、日曜と云うのに、原田・

杉山副事業部長以下、多くの部課長が揃って会議中。早速、私もそれに加わったが、皆の熱意に「これならやれる」と意を強くした。

翌日から事業部の現状把握に着手したが、「それまで事業部の柱であったGEのOEMが打ち切り」「米国では、AT&Tのハンドセットが標準仕様とされていて、現行商品のデザインは市場にマッチしない」ことから、海外の見通しがつかない。

経営計画を守るには、電話機の市場開放直後で、需要の拡大が見込める国内市場の展開を急ぐ以外にないと腹をくくった。

幸い発売直後の留守番電話機(DA-660B)に手応えが感じられたので、会社にお願ひして、十数名の電話機の販売促進専

任者を置き、営業の宮永部長・石原課長がこれをリードしてくれた。いよいよ国内市場に向けての前進である。

まず電話専任者に充分な商品知識と、通信技術・業界動向の教育を施した。

①この専任者が各地に駐在して、セルスの教育・新製品説明・販売店の社員教育に当たってくれた(販売店の社員は、自分が自信を持って説明できる商品を推す)。

②しかし、まだ当時は、電話機の売り場のある販売店が少ない。「電話機の将来性(若い世代に人気)」「小さな商品なので売り場効率が低い」「他社モデルも含めた売れ筋商品の陳列と売り方」などを教えて、売り場の拡大を図った。

③ゼロからスタートして、「シャープブランドに対する信頼感」「全国を網羅する営業力とサービス体制」の支えが如何に大きいかを、改めて認識した。

後に、多くの専業メーカーが次々と姿を消していった主因は、この支えが欠如していたことにある。

④NTTへの納入は、NTT広島支社の大星支社長(後にD.O.C.O.M.社長の親友であった栃木本部長(情報通信営業本部)に道を拓いて頂いた。それまでは、いわゆるファミリー企業に固められていたが、革新的な考え方を持って

おられた大星支社長の理解を得たことが、大きな切っ掛けとなった。

売り場を広げてくると、当然、品揃えを増やす必要が生じる。モデル数を増やしたいが、何しろ全社一小さな事業部なので、設計人員が少ない。しかも、その乏しい中から後に撤退の苦勞を味わうことになる「システム電話機(OEM)、ディクレーティングマシン(OEM)、カーステレオ」に人員を割き、加えて「国内向け電話機」を担当してきた技術者が、当初の約束で、次々と古巣の電化システム(事本)へ引き上げていくという状況にあった。

結果は、「海外向け電話機担当」の筈の石川課長(現 商品信頼性本部副本部長)のグループにすべてを被せて大きな負担を掛け、全体のやりくりには杉山副本部長・辻村部長(故人)の苦勞が絶えなかった。



社友短信

□次ぎの方々の住所が変わっています。すでに修正版会員名簿（広島支部・九州分会）は発行されていますから、お手許に個別住所録をお持ちの場合は訂正をお願いします。

□先日の第十五回ボーリング大会に参加した岡野喜治さん。社友会入会以来、行事初参加のようで、事務所にも一回だけ行った記憶がある、と言っていました。再就職したようですが、社友会行事参加もよろしく。

*上杉 強 さん
*中 晨 さん（九州分会）
*新山 和行 さん

「悩みのない世界」について社友会の皆様はどうお感じになるでしょうか。ある人は、「あの世のこと」と思い、ある人は「くよくよしない世」と思い又ある人は「仙人のような生活」等々各人各様のお考えがあると思います。

「正」は「この世」で「反」は「あの世」で「合」は「この世対あの世」があるのかどうかということになります。別の判り易い例を上げますと「正」が「男」で「反」が「女」とすると「合」は「赤ん坊」です。

もし「男対女」を認めない人がいたとすると「赤ん坊」の存在は何か論理説明がつかないことになります。「男女」の他に、自然界では「昼と夜」「夏と冬」「晴天と雨」

正反合 その一『占い』

幸 實

「生と死」「この世とあの世」等々、物理界では「作用と反作用」「電気のプラスマイナス」「粒子と波」「数学の実数と虚数」「その他多くの自然現象」等々です。「正」に対して真正面から立ち向かう技術者にとってこの現象の理解が重要で「本当か嘘か」の境目での興味のある話が多いのです。

私達は誰も知らない、あの世「反」から生を受け、今この世「正」に存在し、やがて旧に戻る死「合」を迎えます。この循環「生から死に至る間の自分の運命」に何か「自然の法則、ルール」つまり「合」があり、それを解き明かしたいと古代の人が考えたのは至極当然でしょう。それが占いだと思うのです。占いはやはり科学の中に入れても良い「正反合」の一つだと思っています。

「大自然」は、例えば、食物の連鎖によっ

て強い生物が弱い生物を食して生きていく世界であります。強い、弱いは大自然が決めた法則、ルール（エネルギーの循環）に従って決まっています。また、水があり、風があると「波」を生じます。「波」は水でもなく風でもありませんが水と風によって作られたエネルギーであります。自然界で規則正しいルールや法則の世界は、太陽や星の「天体」の動き、夏や冬の「季節」の動きそれに「木火土金水」という当時の中国流万物の「元素」を加えて

「人の生年月日時間」が「その人のエネルギーのスタート（運勢）である」として使われていると思います。そのルールを発見作成した古代人は、多分に霊感的な部分が

あつて説明の付かない部分もありますが、ゲーム感覚として、面白いと思っています。「占星術」は、生年月日時間を基として、数多くの組み合わせ（連立方程式）を作り、さらに組み合わせに解釈の強弱を付けて最終判断を下す「鑑定人の鑑定能力を問われる」複雑な手法であることを付け加えておきます。しかし残念ながら占いは「死後の世界」についてどうなるかまでの予測はなく、それはもっぱら宗教家の「地獄極楽閻魔説」が流布されていたようです。

さて、今回は「あの世」についても少し「現代科学」と「正反合」を駆使して分析してみたいと思っています。

新会員紹介 (H13.7.1~9.30)

竹谷 仁 さん	No.1970
高橋 秀夫さん	No.1988
佐野 昭廣さん	No.2019
藤川 智之さん	No.2029
板 長利さん	No.2030
山本 孝喜さん	No.2047
竹下 晃 さん	No.2043

編集後記

◆広島支部会報『ひびき』第20号をお届けします秋だけなわで、何をするにも好季節なのですが、号で何か皆さんの秋を紹介したいですね。

◆幸会長から原稿をいただきました。まことに勝手ながら、独断と偏見をもって前略・中略・後略と、約二分の一に圧縮しました。ご容赦下さい。

◆なお、会長持論の展開もあつて続編があります。

◆顧問として、後輩達の育成に情熱を傾けておられる、中川伊志己さんに『通信事始物語』最終章をお願いしました。杉山健さんからは、中川さんにおねがいがいたら、と助言をもらっていました。快く承諾いただき次号との連載になります。

◆『新会員紹介』は、紙面の都合で顔写真・住所電話番号など省略させていただきました。会員名簿で確認をお願いします。

(裕)